

策划 中国儒学与法律文化研究会  
日本东京法思株式会社

2006146



# 儒家思想 与现代道德和法治

主编 陈鹏生  
反町勝夫

吉林人民出版社

# 儒家思想与现代道德和法治

中国儒学与法律文化研究会 策划  
日本东京法思株式会社

主编 陈鹏生  
反町勝夫

吉林人民出版社

(吉)新登字 01 号

## 儒家思想与现代道德和法治

---

主 编 陈鹏生 反町胜夫  
责任编辑 李艳萍 封面设计 尹怀远  
责任校对 李艳萍 谷艳秋 版式设计 晓 君

---

出 版 者 吉林人民出版社  
(长春市人民大街 124 号 邮编 130021)  
发 行 者 吉林人民出版社  
印 刷 者 长春市东新印刷厂

---

开 本 850×1168 1/32  
印 张 12.25  
字 数 302 千字  
版 次 1998 年 6 月第 1 版  
印 次 1998 年 6 月第 1 次印刷  
印 数 1—800 册

---

标准书号 ISBN 7-206-02966-3/B·77  
定 价 20.00 元

---

## 目 录

- 儒家思想与现代道德和法治的若干现实思考  
——代 序 ..... 陈鹏生 (1)
- 儒家思想と現代的道德及び法治に関する若干の  
現実的思考  
——序言に代わい ..... 陳鵬生 (6)
- 关于日本的“孝”和老亲抚养的现代意识的考察  
..... 反町勝夫 (13)
- 日本における「孝」と老親扶養の現代意識の考察  
..... 反町勝夫 (27)
- 儒家思想与当代中国  
——在中国儒学与法律文化研究会第四届年会上的讲话  
..... 汤恩佳 (45)
- 儒家法思想与当代中国法治略论..... 萧伯符 (48)
- 儒家法律思想与现代法律思想的冲突..... 顾敏康 (59)
- 历代刑法志与中国传统法律文化..... 何勤华 (65)

## 民权：从民本到民主的接转

——儒家法文化的被现代化之一例…………… 俞荣根 (80)

## 中西古今之间

——兼论传统法文化到法制现代化的必由之路

…………… 马南 刘桂欣 (95)

传统法文化与现代法治 …………… 石川英昭 (104)

伝統法文化と現代法治 …………… 石川英昭 (110)

中国法律现象中儒家思想因素及其他因素 …… 高见泽 磨 (117)

儒学、传统文化和现代法治 …………… 徐永康 (123)

社会伦理与法律传统的衔接 …………… 高旭晨 (134)

精神文明建设应借鉴和更新传统法律及其观念 …… 马小红 (141)

礼仪之邦走向现代法治 …………… 杨永华 张勇 木可 (152)

## “富之”，“教之”

——孔子治国方略浅析 …………… 高恒 (158)

孔子法律观新论 …………… 马作武 (164)

孔子的仁治思想评议 …………… 高积顺 (171)

## 仁政与法治

——孟子仁政思想与当代法治建设的和谐与冲突

…………… 杨永华 高文和 曹恒民 木可 (183)

古代仁义思想新论 …………… 林国雄 (194)

道德的权力和以道德约束权力 …………… 郭道晖 (206)

儒家的人格教育思想与现代法治 …………… 朱淳良 (220)

儒家思想与传统“私人所有观念” .....	赵晓耕 (229)
共治与整合：礼法合治思想在基层社会中的实践 .....	韩秀桃 (241)
宗法观念对现代道德与法治的影响 .....	袁兆春 (254)
宗祧继承与传统法文化 .....	丁凌华 (266)
诚信原则与中华伦理背景 .....	苏亦工 (277)
“孝”的传承与现代精神文明建设 .....	顾顺莲 (289)
孝与汉代社会及法律 .....	侯欣一 (295)
儒家道德观与诉讼文化 .....	孙丽娟 (312)
论传统法律概念的现代化 .....	吴晓梅 (320)
论中国少数民族的法与道德关系 .....	罗昶 瑞溪 (330)
国家与社会：汉代“独尊儒术”及其对当代 法制建设的启示 ——重读《汉书·循吏传》和《后汉书·循吏列传》的感想 .....	徐忠明 (340)
中国家庭内部暴力犯罪现象分析 ——兼论中国妇女权益保护 .....	沙克仑 (351)
慎刑思想与我国的新刑事法律 .....	王立民 (355)
法律与道德：中国法治进程中的难解之题 ——对法律与道德关系的再追问和再思考 .....	刘作翔 (365)
附录 法律文化研究论文目录（1995—1997年） .....	(382)
后记 .....	(386)

## 儒家思想与现代道德和 法治的若干现实思考

——代 序

陈鹏生\*

历史即将跨入二十一世纪，在这世纪之交，我们社会现代道德和法治建设的走向如何，作为中国传统文化之核心的儒家思想，对这一走向将产生什么样的影响，这是人们十分关注的课题。1997年5月，中国儒学与法律文化研究会，得到日本东京法思株式会社和河南大学法学院的大力支持，在历史名城开封召开“儒家思想与现代道德和法治”的专题讨论，来自中国各地的专家和日本、美国以及香港特区的专家共五十多人聚集一堂，对此开展了热烈的讨论。收入这本集子的大多是与会专家学者提供的论文。这些论文，反映了与会专家学者十分可贵的研究心得，以及他们的不同视野和认识，从多方面给人以深刻的启迪。我们相信，这对于深入开展现代道德和法治建设的讨论，将会起到积极的推动作用。

在讨论现代道德和法治建设时，将它和儒家思想联系起来，这是考虑到中国社会的历史和文化的特有情况。孔子作为开创儒家学派的大师，其志在改易天下。他的伦理观点和政治观点是一致的，为学就是为政，修己就是治人。他将人生修为和治国经邦看

---

\* 中国儒学与法律文化研究会会长、华东政法学院教授。

成是人生最主要的东西。因此，不论是孔子本人，还是后来各个时期的儒家人物，都是以积极参与的态度，对人生修为和治国经邦，表达自己的观点，提出自己的主张。而随着儒家思想在封建社会占统治地位的确立，儒家的思想观点和主张，便进一步渗透到社会的经济、政治、文化，以至民族的心理等各个方面，形成一股历久不衰的强大影响力。可以说，不论是一部中国社会史，或一部中国文化史，儒家思想的影响，是无处不见的。即使是进入现代社会的今天，我们在进行现代道德和现代法治的建设时，也仍然不能不考虑儒家思想的历史影响和现实影响。

当然，儒家思想的影响有积极的一面，也有消极的一面。我们既不能站在今天的社会，用现代的标准去评判儒家思想的是与非，又不可能离开儒家所处的时代，要求儒家提出为我们今天建设现代道德和法治所需要的思想和主张。对我们来说，我们今天的使命只能是在深入研究儒家学说的基础上，对儒家思想进行科学的批判与继承。有人怀疑孔子创立儒家学说是两千多年前的事，星移斗转，社会屡经递嬗变迁，儒家思想对我们还有现实的价值吗？我想，倘若我们真正面对现实进行思考，这个疑问是不难解决的。中国传统文化，向来讲儒、释、道。佛教讲修道可以成佛，道教讲修道可以成仙，唯独儒家学说，不讲鬼神而讲“朝闻道，夕死可矣。”<sup>①</sup>可是千百年来，人们对于不讲成仙、成佛的儒学，却寝馈其中，乐此不疲，甚至广及东南亚，以至西欧，都有那么一批学者在孜孜不倦地潜心钻研和探讨，历久而不衰，这能说儒学在今天已经没有内在的活力了？当然，儒家所讲的道，所要学的道，要志的道，要适的道，要谋的道，其内涵是十分丰富而深刻的。孔子的得意门生中离得道不远的颜回，对此深有体会，他说：“仰之弥高，钻之弥坚，瞻之在前，忽焉在后。”<sup>②</sup>可惜他没有真正掌握道便死了，所以孔子夸赞他“一箪食，一瓢饮，在陋巷，人不堪其忧，回也不改其乐。”<sup>③</sup>颜回这种在“人不堪其忧”的情况下仍然



“不改其乐”的精进求道精神，说明儒家所讲的道，有其高于成仙、成佛的内在理念价值。孟子说过：“理义之悦我心，犹刍豢之悦我口。”<sup>④</sup>在孟子看来，理义这种洞彻人生真谛的精神食粮，比美食更重要。大概就是这种引导人们向道德、理义的路上走，是儒家所讲之道的含义，所以，儒家虽不能使人成仙、成佛，但旨在使人“成人”，才使儒家学说历久而不失其魅力。

今天，我们在研究跨世纪的现代道德和法治建设的走向时，联系儒家思想在下列几个问题上是值得进行现实思考的：

一、建立现代新型价值体系。儒家思想以重视人、崇尚仁为特色，并以此为核心建立起博大精深的思想体系，其中就包括价值体系。儒家哲学对于人的认识，有一个很高的起点，认为人是有理性、有精神、能反省的，并且自然有一种求知、求本的心理。儒家把人和天并提，以“天人合一”作为其学说的基本概念。但这个有强大影响力的天，在儒家看来是带有道德意志以至目的论含义的天，它是人世间一切价值的源头的天。而“人者天地之心也，”<sup>⑤</sup>所以宋儒张载说：“儒者则因明致诚，因诚致明，故天人合一，致学而可以成圣，得天而未始遗人。”显然，这里所讲的天人合一，主要指的是伦理道德上面的。时至今日，人们常讲“天理良心”，这实际上是把具有强烈价值观念的天与人的良知联系起来，从而唤起内心的道德意识。这一点，对我们考虑现代新型价值体系，无疑是很有启发的。我们要弘扬中国传统道德的精华来发展现代道德，也应该唤起中国人心底积淀的天人合一意识，在守法执法，处理人际及群我关系上，强调自觉，讲究真诚。使以天为价值源头的道德精神，深入人心。倘如此，则一个人人自觉遵纪守法，和谐安定的社会秩序就会建立起来。

二、建立现代的德育与法治相结合的新模式。儒家历来主张“为政以德”，认为这是“譬如北辰，居其所而众星共之。”<sup>⑥</sup>儒家讲“为政以德”含义很广，主要包括惠民、宽政、德教。惠民与宽政

都是出自仁的要求。而德教则是为了导民为善，如何实施仁义礼乐之教的问题。孔子说过：“道之以德，齐之以礼，有耻且格。”<sup>⑦</sup>可见在儒家看来，通过德教可以改变人的禀性，这与儒家的人性认识有关。因为人是“性相近也，习相远也。”<sup>⑧</sup>所以在德教与刑罚之间，重教育感化，这无疑是对的。问题是要防止片面化和绝对化。德教与法治要相辅相成，才能相得益彰。在建构新的道德和法治的过程中，如何利用中国历史上这种重德教的传统，将道德教育感化和法律的强制更好地结合起来，这是有丰富的内容，亟待深入探索的课题。

三、构建现代社会新的和谐关系。儒家十分强调和谐，一方面，主张人与自然的关系应该和谐，另一方面，主张人与人之间的关系也应该和谐，认为和谐才是人与自然、人与人之间关系的正常秩序。

儒家认为对待天地万物应该采取友善、爱护的态度，天地万物的自然资源是人类赖以生存的物质基础。倘若随意破坏、浪费这些自然资源，就会损害人类自身。所以，儒家对保护自然资源是很自觉的。据《论语》记载：“子钓而不网，弋不射宿”，即孔子只用鱼竿钓鱼，不用大网拦河捕鱼，并反对偷猎归林的宿鸟。孟子也主张“数罟不洿池”，“斧斤以时入山林。”<sup>⑨</sup>就是说，捕鱼不得用细密的网，以免连小鱼也捕上来。采伐树木要遵守一定的时节，以免妨害树木的生长。这种爱护自然资源，保护生态平衡的思想，是非常可贵的，也无疑是现代社会建设中应该强调的内容。

儒家又强调人际关系的和谐。儒家以天下一家为理想目标，因而以一家规模推之天下，以期整个社会成为“老者安之，朋友信之，少者怀之”的和睦大家庭。值得注意的是，儒家认识到社会和谐秩序遭到破坏，往往是由于统治者的横征暴敛，违背了人民的自然生养之道。因而儒家在抨击“苛政猛于虎”的同时，竭力劝诫统治者要“使民以时”，主张轻徭薄赋，少动干戈。

和谐是人类社会发展的必要秩序,提倡和维护和谐的关系,自然应当成为现代道德和法治建设的内在要求。对此,儒家关于和谐的主张和思想观点,还是有相当的现实价值的。

儒家自汉代以来,长期作为中国社会的指导思想。儒家思想的某些主张和观点,经过长期的渗透演化,实际上已成为稳定性很强的社会生活准则,从而带有一定的民族精神。正因为儒家思想的某些方面,不仅是反映了一定的时代性和阶级性,也反映了一定的民族共同生活的习尚和准则,为人民群众所接受,所以儒家思想虽然屡经批判和剿伐,但直到现在,我们的社会还是不能完全割断和它的联系。其实,批判不等于全盘否定和彻底决裂,正确的批判其应有之义是既要摒弃原来体系中的不合理的东西,又要继承其合理的因素,并加以利用、改造和发展。我想,我们在讨论儒家思想与现代道德和法治的关系时,也应该采取这个态度。

注释:

- ① 《论语·里仁篇》。
- ② 《论语·子罕篇》。
- ③ 《论语·雍也篇》。
- ④ 《孟子·告子上》。
- ⑤ 《礼记·礼运篇》。
- ⑥ 《论语·为政篇》。
- ⑦ 《论语·为政篇》。
- ⑧ 《论语·阳货》、《尧曰》。
- ⑨ 《孟子·梁惠王》。

## 儒家思想と現代的道德及び法治に関する 若干の現実的思考

——序言に代わり

陳鵬生\*

歴史はまもなく21世紀に入る。この世紀の相交わる際に、我々社会の現代的道德と法治建設がどこに向かっていくべきなのか、中国の伝統的文化の中核となる儒家の思想がその方向にどのような影響を与えぬのかは極めて注目される課題である。1997年5月に、中国儒学と法律文化研究会は、日本国の株式会社東京リーガルマインドと河南大学法学院の大きな支援を得て、歴史的名城である開封で「儒家思想と現代的道德及び法治」と題するシンポジウムを開いた。中国各地のほか日本、アメリカ、香港特区から50人程の専門家が一堂に会し、激しい討論を行なった。本書は、同会に出席した専門家や学者らによって提出された論文のほぼ全部を収録したものである。これらの論文は貴重な研究心得、及び様々な研究視野と認識を反映したものであり、多方面から我々に深い啓発をもたらしてくるに違いなく、現代的道德と法治建設に関する討論の展開を推し進める上で積極的な役割を果たしてくれらるであろう。

\* 中国儒学と法律文化研究会会長、华东政法学院教授。

現代的道徳と法治建設を討論する際に、それを儒家の思想と結びつけるのは、中国社会の歴史と文化の特有な状況を考へてのことである。孔子は儒家の学派を創造した大師として、その志は天下を改造することであり、彼の倫理的観点と政治的観点とは一致している。つまり、彼の「学び」は「政治」のためであり、自身を修めるのは人を治めるためである。それゆゑ彼は「人生修為」(人生を修めること)と「治国経邦」(国を治めること)を人生の最も重要なことと見做すのである。したがって、孔子本人にせよ後の各時期の儒家にせよ、いずれも「人生修為」と「治国経邦」に対しては、積極的参与の態度を取り、自分の観点を表し、自分の思想を主張した。封建的社会における儒家の思想の統治的な地位が確立されるにつれて、儒家の思想、観点と主張はさちに社会の経済、政治、文化、ないし民族の心理などの各方面に浸透してゆき、長く衰えぬ強い影響力を形成してきた。中国の社会史であれ中国の文化史であれ、いずれも儒家思想の影響を深く受けていると言えよう。そのため、現代社会となった今日でも、我々が現代的道徳と法治建設を作り上げる際に、依然として儒家思想の歴史的影響と現実的影響を考えなければならないであろう。

勿論、儒家思想には積極的な側面があれば消極的な側面もある。我々は、今日の時点で現代的基準を用いて儒家思想の是非を判断してはいけないし、儒家の時代を無視しつつ、現代的道徳と法治建設に必要な思想や主張の提起を儒家に要求するのも無茶なことに違いないのであろう。我々の使命は、儒家の学説に対する深い研究をもとにして、儒家の思想を科学的に批判したり受け継いだりしていくほかにはない。孔子により創立された儒家の学説は二千数百年前のことで、時代や社会が変わった現在の我々にとって、儒家の思想にまだ現実的価値があるのかと

疑う人がいるが、もし本当に現実を正視して考えればこの疑問を解くのは難しくないと思ふ。

中国の伝統的文化は旧来から儒、釋、道を語ってきた。仏教は修業したら仏に、道教は修業したら仙人になるという。儒家の学説だけは鬼や神を語らず「朝に道を聞けば、夕に死すとも可なり」<sup>①</sup>と説く。しかし、数千年来、仙人や仏になることを宣教していないこの儒学に対して、中国人はもとより東南アジアないし西欧でさえも多くの学者が懸命に研究し検討しているのである。果たして、現在、儒学は既に内在的活力を失ったと言えるであろうか。たしかに、儒家のいう道、学ぶべき道、志す道、適う道、図るべき道、その中身は極めて豊富であり深いものである。孔子の愛弟子の顔回がこれに対して、「之を仰げば、弥高く、之を鑽れば弥堅し。之を瞻るに前に在り。忽焉として後に在り」<sup>②</sup>と深く理解している。残念ながら彼は完全には道に適わずに死んでしまった。孔子は顔回を「一簞の食、一瓢の飲、陋巷に在り。人は其の憂に勸へず。回や其の樂を改めず。賢なるかな回や」<sup>③</sup>と誉めていた。顔回のこのような「人は其の憂な勸へず」の状況の下でも依然として「其の樂を改めず」精一杯に道を求める精神は、儒家のいう道が仙人になり仏になることよりも、高い内在する理念的価値を有することを現わしている。孟子は、「理義之悦我心、猶豢之悦我口」<sup>④</sup>と説いた。つまり、人生の本質の意義を語る義理という精神的食糧は美食よりも重要だと思っている。恐らくこのように人を道德、義理の道に導くのは儒家のいう「道」の意味であろう。かくして、儒家が人をして仙人や仏たらしめず、本の「人」に成させることは、その魅力の末長く存続する原因となっている。

今日、我々は世紀に跨がる現代的道德と法治建設の方向を検

討する際に、儒家の思想と結びつけて、以下の幾つかの問題を現実的に思考すべきと思われる。

一、新しい現代的価値体系を作り上げる。儒家の思想は人を重視し、仁を尊ぶというのを特色とし、また、これを中核にして広大かつ豊富な思想体系を作り上げたのである。価値体系はその中に含まれている。儒家の哲学は人に対する認識を高い起点に置いて、人が理性と精神を持ろ、反省ができ、なおかつ自然的に知識、根本を求める心理を有すると見做している。儒家は人間を天と並び、「天人一体」をその学説の基本的概念とする。しかし、この強大の影響力を持つ天は、儒家から見れば道徳の意志を有し、乃至月的論が含まれた天であり、世の中における一切の価値の源となる天である。即ち「人者天地之心也」<sup>⑤</sup>(人間は天地の心だ)という。ここでの「天人一体」はあくまでも主に倫理、道徳の面を指す。今日までも流れている「天理良心」というのは、実に、強い価値観念を含んだ天を人間の良知と結びつけて、人間の内在する道徳意識を喚起するためである。

このことは、我々が新しい現代的価値体系を考慮する時に、大きな示唆を与えてくれるに違いない。中国の伝統的道徳の精粹を高揚して現代的道徳を発展させるなら、中国人の心の底に埋没している「天人一体」の意識を喚起すべきであろう。人間関係及び団体と個人の関係を処理する際にも自覚と誠意を強調するということを通じて、天を価値の源とする道徳の精神を人々の心に注入できれば、人々が規律や法を守るようになり、調和のとれ安定した社会の秩序は作り上げられるのであろう。

二、現代的道徳教育(徳教)と法治と結合した新しいモデルを作り上げる。儒家が従来「政を為すに徳を以て」と主張し、これは「例えば北辰の其の所に居て、衆星の之に共ふが如し」<sup>⑥</sup>と提唱している。この「政を為すに徳を以て」の意味がとても広く、

主に惠民、寛政、徳教を含んでいる。惠民と寛政はいずれも仁に要求されぬが、徳教は如何に民を善の道に導き、仁・義・礼・楽の教を實施していくのかといった問題である。孔子は「之を道くに徳を以てし、之を斉ふるに礼を以てすれば、恥有りて且つ格る」<sup>⑦</sup>といった。そこで、儒家から見れば、徳教を通じて人の本性を改めることができるのである。これは儒家の持つ人間性への認識と関係があり、「性は相近し。習ふことは相違なる」<sup>⑧</sup>からである。従って、刑罰より徳教での教育感化を重視すべきであろう。勿論、一方性と絶対化を防ぎ、徳教と法治はお互いに補完してはじめて両立になる。新しい道德と法治を構築する過程においては、如何に、中国の歴史上、徳教を重視するこのような伝統を応用して、道德的教育感化を法律の強制とより巧く結び付けるのかは、豊富な内容を持ち深く探求すべき緊迫の課題である。

三、現代的社会の新しい調和的關係を作り上げる。儒家は調和を存分に強調する。一方、人間と自然との關係が調和になるべきことを主張し、他方は、人と人との關係も調和になるべきと主張する。このような調和こそ、人間と自然、人と人との正しい關係であると思われる。

儒家は天地万物に対し友好、愛護の態度を採るべきと説く。天地万物の自然的資源は人類の生存する物質的基礎であるので、もしこのような資源を故意に破壊したり浪費したりすると、人類も損害を蒙るのである。そこで、儒家は自然的資源の保護を自覚しているわけである。「論語」の記載によると、「子は釣すれども綱せず。弋すれども宿を射ず」<sup>⑨</sup>。つまり、孔子はつり糸を垂れて魚を捕ることはしたが、延縄で沢山の魚を一時に捕ることはしなかった。又いぐるみで飛鳥を捕ることはしたが、心安らかに木に宿っている寝鳥を射ることはしなかった。孟子も、



「数罟不池」、「斧斤以時入山林」<sup>10</sup>と説いた。即ち、魚を捕る時に、精密な網を使わず、小さな魚も入ってくるのを避けるのである。木を伐採する時に、一定の時節を遵守しなければならず、木の成長を害することを避けるのである。このような自然的資源を愛護し、生態バランスを保護するという思想は非常に貴重であって、現代的社会の建設においても強調すべき内容であるに違いない。

また、儒家は人間関係の調和を強調する。儒家は「天下皆一家」を理想的目標とし、一家の様態を天下に推し進め、社会の全体は「老人が安泰、友達が信頼、若者が抱負」を持つような平和的大家族になることを目指している。注意すべきは、儒家は、社会の調和的秩序の破壊される原因が往々と統治者の「横征暴斂」（無茶苦茶に重税を取り立てること）によって、人民の自然的な生活が脅かされたことを認識している。したがって、儒家は「苛政猛于虎」（苛政は虎より恐ろしいこと）を批判すると共に、賦役・税の軽減、戦争の回避を一生懸命に統治者に勧告した。

調和は人類の社会発展の必要な秩序であるので、調和的関係を維持し提唱するのは、当然、現代的道徳と法治建設の内的要求になる。これに対し、儒家の調和に関する主張や思想と観点には相当の現実的価値があると思われる。

儒家は漢代以来、長きにわたって中国社会の指導的思想になった。儒家思想の幾つかの主張と観点は長期的な浸透と進化を経て、實際上、安定性の強い社会生活の準則になったのであり、一定の民族的精神を付随している。儒家思想のある側面は一定の時代性と階級性を現わしたのみならず、一定の民族の共同生活の習慣や準則をも反映して、人民大衆に受け入れられているからこそ、儒家思想が何回も批判され討伐されても、現在において